

2023 Vietnam water week (ベトナム上下水道展示会)

研究第二部
研究員

ビ タン ハイ



はじめに

本機構では、わが国の下水道関連企業のビジネス展開の支援等を目的とし、海外への情報発信や技術情報の収集を図るため、積極的に国際会議や展示会に参加しています。

今回は、日本下水道事業団と本機構の共同出展として、令和5年9月28日（木）～9月30日（土）の3日間にわたり、ベトナム国・ビンズオン省で開催された「ベトナム上下水道展示会2023（Vietnam Water Week 2023）」に参加したので報告します。



展示会

本展示会は、ベトナム上下水道協会（VWSA）の主催、ベトナム展覧広告株式会社（VIETFAIR）の共催により開催されました。国内外の企業等が約80ブースを出展し、水・環境分野の先進技術・製品などが紹介されました。日本側からも複数社の参加がありました。

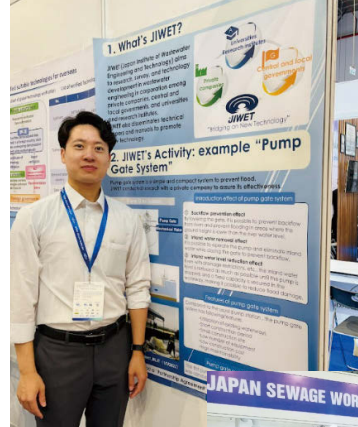
本機構は、産学官連携による下水処理の新技术開発、水環境改善、浸水対策、技術評価等に係る取り組みを紹介するとともに、日本下水道事業団との連携体制強化等を広く発信しました。

特に、本機構のパネルでは、現地のニーズに応じて、(株)石垣と共同研究を行った全速全水位運転可能な排水ポンプ技術を紹介しました。ベトナムは熱帯国であり、台風シーズンの洪水被害は深刻な状況です。そのため、国や地方自治体では雨水排水対策に力を入れており、パネル展示に大変関心を持っていただきました。



セミナー

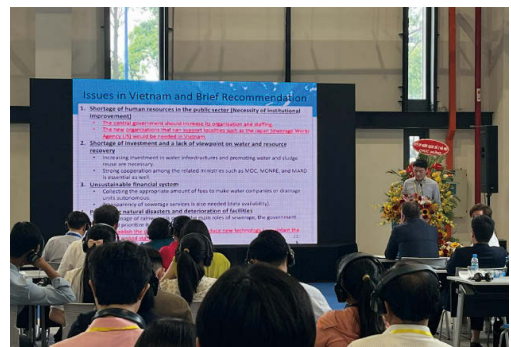
展示会会場内では、現地の「生活と持続可能な開発のための水環境」セミナーが行われました。海外の発



写真－1 パネル展示での説明の様子
(下：ベトナム地方自治体の方)



写真－2 会場全体の様子（出展者：約80社）



写真－3 日本の官民連携事業の説明
(田本JICA専門家)

表者が多くいた中で、日本の下水処理技術セミナーが特別に設けられ、日本の下水道技術への関心の高さが伺えました。

田本典秀JICA専門家が日本の官民連携事業の状況について説明した中で「ベトナムには、ベトナム版の日本下水道事業団が必要」と話していたのが印象的でした。ベトナムの下水道は、日本より約30年遅れていると言われており、これから新たな処理施設を建設していく時代です。田本氏の発言を受け、地方自治体のパートナーとして下水道を支える下水道事業団は、大きな存在になるはずだと共感しました。



見学会

ベトナムの南部にある「Di An下水処理場」の見学をしました。使用開始は2018年（5年経過）、処理能力は20,000m³/日です。

処理方法はSBR法（連続流入回分式高度処理活性汚



写真-4 処理場の概要図

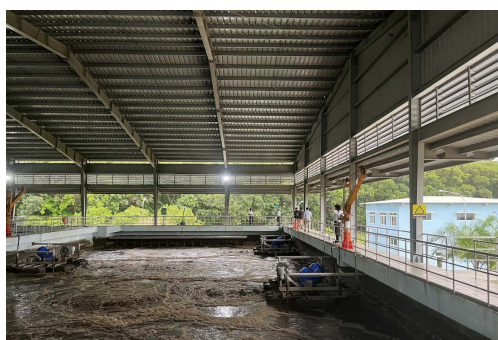


写真-5 エアレーションタンク

泥法)であり、特徴としては、一つの水槽で攪拌・曝気・沈殿・上澄水排出（自動運転、5時間/サイクル）を全て行うことです。



おわりに

ベトナムは、ハノイ市に新たに電車が開通するなど、インフラ整備については活発な国ですが、下水処理の普及率はまだ低く、大きなマーケットとして期待できます。本展示会を通して、本機構の取り組みを国際的にPRすることができました。

最後になりますが、私はベトナム出身の日本下水道事業団プロパー職員として本機構に出向しており、今回は日本下水道事業団と本機構の架け橋、そして日本とベトナムの下水道に貢献できる貴重な機会をいただき、非常に嬉しく思います。今回の経験を活かし、国内外の下水道事業に貢献できるよう、今後も取り組んでいきます。



写真-6 ハノイ市を流れる川



写真-7 ハノイ市に電車ができました